

## 地球温暖化が世界的な糖尿病の増加の一因か

褐色脂肪細胞は、エネルギーを燃焼して熱を産生することで、寒い環境で体温の低下を防ぐ働きをもつ。一方、温暖な環境では褐色脂肪細胞は活性化されにくく、これがインスリン抵抗性や糖尿病発症につながる可能性があるといわれている。そこで本研究では、外気温と糖尿病の関連について検討した。

1996～2009年の全米のデータから成人の糖尿病発症率と各州の年間平均気温との関連についてメタ回帰分析を行った。また、世界保健機関（WHO）のデータベースから190か国の空腹時血糖の上昇と肥満率のデータを用い、世界の年間平均気温との関連についても分析した。その結果、気温が1℃上昇するごとに、年齢で調整した米国における糖尿病発症率は1,000人当たり0.314人増加した。同様に、世界の耐糖能異常の有病率も0.170%増加した。

したがって、外気温の上昇と糖尿病発症率の増大が関連する可能性が示唆された。

出典：British Medical Journal Open. Diabetes Research and Care 2017; 5: e000317.